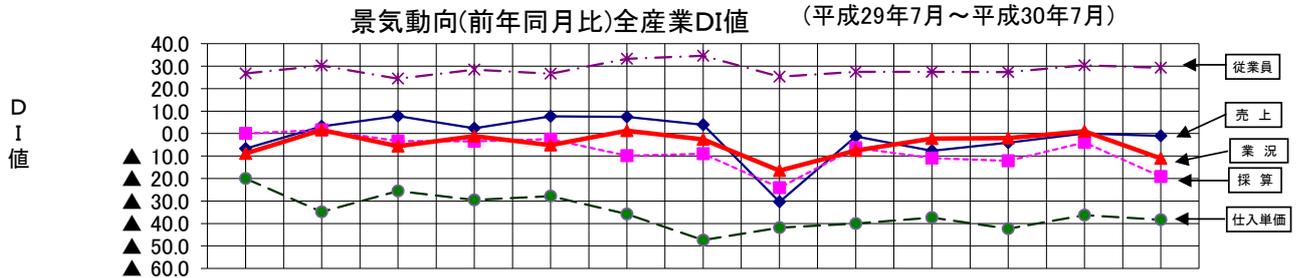


早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 7月分

【7月の概要】 景況感はやや改善の動き、先行きは依然として慎重な見通し

6月に比べると、売上DIは0からマイナスとなり、業況DIもプラスからマイナスに転じた。仕入単価DIと採算DIはマイナス幅が増加した。従業員DIのプラス幅はやや減少している。原材料費や燃料費の上昇など仕入コスト増が採算面に影響を及ぼし、景況感は回復基調からやや後退の動きを示す状況となった。

先行きについては、6月に比べ、売上DIのプラス幅が増加している。仕入単価DIのマイナス幅はほとんど変動していないが、採算DIのプラス幅は減少し、業況DIもプラスからマイナスに転じた。従業員DIのプラス幅はやや減少した。売上の改善は見込まれるものの、仕入コスト増などの影響もあって採算面と業況の改善は慎重な見方が続いている。



	平成29年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	平成30年 7月
◆ 売上	▲ 6.7	3.2	7.8	2.3	7.6	7.4	3.9	▲ 30.4	▲ 1.3	▲ 7.7	▲ 4.0	0.0	▲ 1.0
■ 採算	0.0	1.6	▲ 3.3	▲ 3.4	▲ 2.5	▲ 9.9	▲ 9.0	▲ 24.1	▲ 6.3	▲ 11.0	▲ 12.1	▲ 3.9	▲ 19.2
▲ 業況	▲ 8.9	1.6	▲ 5.6	▲ 1.1	▲ 5.1	1.2	▲ 2.6	▲ 16.5	▲ 7.5	▲ 2.2	▲ 2.0	1.0	▲ 11.1
● 仕入単価	▲ 20.0	▲ 34.9	▲ 25.6	▲ 29.6	▲ 27.9	▲ 35.8	▲ 47.4	▲ 41.8	▲ 40.0	▲ 37.4	▲ 42.4	▲ 36.3	▲ 38.4
* 従業員	26.7	30.2	24.4	28.4	26.6	33.3	34.6	25.3	27.5	27.5	27.3	30.4	29.3

【全産業平均DI】 ※DI(景況判断指数)=(良い割合)-(悪い割合)

売上DIは0.0からマイナス1.0になり、業況DIはプラスからマイナス11.1ポイントに転じた。仕入単価DIは2.1ポイント、採算DIは15.3ポイントマイナス幅が増加した。従業員DIは1.1ポイントプラス幅が減少した。

全産業平均DI - 向こう3か月間の先行き見通し

	売上(受注・出荷)	採算	仕入単価	従業員	業況
6月	5.9	4.9	▲ 31.4	32.4	2.0
7月	14.1	1.0	▲ 31.3	30.3	▲ 1.0

先行きは、売上DIは8.2ポイントプラス幅が増加した。仕入単価DIは0.1ポイントマイナス幅が減少。採算DIは3.9ポイントプラス幅が減少し、業況DIはプラスからマイナス1.0ポイントに転じた。従業員DIは2.1ポイントプラス幅が減少した。

【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	塗装工事	民間工事を中心にまずまずの動向。大型工事が少なく、件数は多いが効率は良くない。
	設備工事	県内建設市場の冷え込みが大きく、設備投資が少ない。
製造業	鉄工	企業間に多少のバラツキはあるが、受注残は各社とも潤沢である。首都圏が牽引する現状の景況感はいましばらく続くと思う。
	食料品	主要原料(米粉、小豆)のほか、資材(プラスチック包材、段ボール等)物流費も値上げ要請がある。
卸売業	金属製品	製造業、建設業の需要が堅調に推移し、販売価格の持ち直しがあるが、輸送費等のコストアップが懸念される。
	日用雑貨	季節的に弱い市況であるが、特定ブランド商品が好調である。
小売業	生花	売上は7月の婚礼需要に多少動きがあるが全体的に厳しい。8月のお盆に期待したい。
サービス業	運輸	燃料価格が高騰している。貨物量は安定しているが、これ以上増加すると、人手不足で運べない状況になりかねない。
	ビルメンテナンス	過去数回の最低賃金引上げの影響と人手不足による募集単価(時給等)の上昇で、人件費が上がってきている。
	不動産開発	商業施設の空き区画が増加傾向、土地についても無放置状態が目立つようになってきた。